

「(仮称)青森市地域福祉計画」策定に係る
アンケート調査
(社会福祉法人、NPO法人、ボランティア団体用)
集 計 結 果

■ 調査目的

新しい「(仮称)青森市地域福祉計画」の策定に当たって、市民や各団体の考え・意識などの現状と課題を把握し、地域福祉計画の基礎資料とするため。

■ 調査対象者数

133件

- ・社会福祉法人:87
- ・NPO法人:39
- ・ボランティア団体:7

■ 調査期間

15日間(平成27年6月10日～平成27年6月24日)

■ 調査方法

青森市内に住所を置く全ての社会福祉法人、NPO法人及びボランティア団体に送付

■ 回答数、回答率

98件、73.6%

■ 対象者別回答数・回答率

対象者	社会福祉法人	NPO法人	ボランティア団体	合計
対象者数	87	39	7	133
回答数 (回答率)	67 (77.0%)	24 (61.5%)	7 (100.0%)	98 (73.6%)

■ 注意事項

- (1) 図表中の「n」は、回答数を示しています。
- (2) 調査結果の比率は、その設問の回答数を基礎として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答形式の設問については、回答比率の合計を100%とするために、その設問の総回答数を基礎として回答比率を算出しています。

社会福祉法人

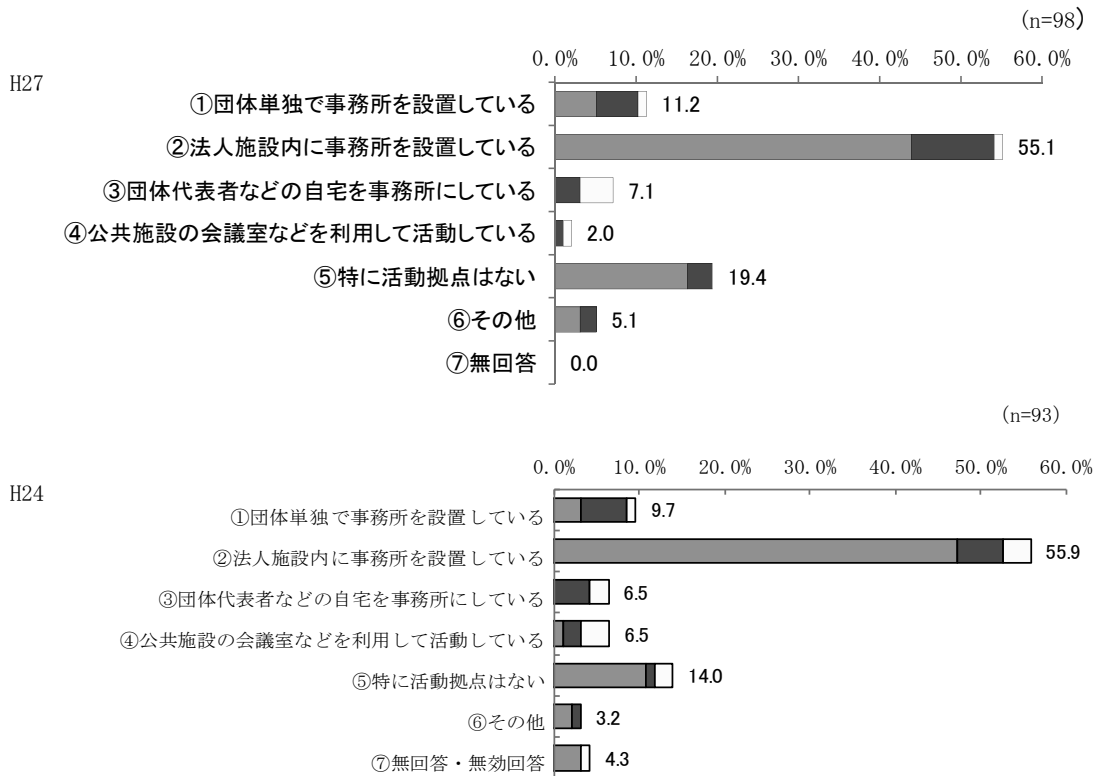
NPO法人

ボランティア団体

≪ I. 地域での活動状況について ≫

【問 2】

地域活動を行う上で、貴団体の主な活動拠点は、次のどれにあたりますか。該当するものに○をつけてください。（○は1つ）



活動拠点については、「②法人施設内に事務所を設置している」と回答した割合が55.1%と最も高く、次いで「⑤特に活動拠点は無い」が19.4%となっています。

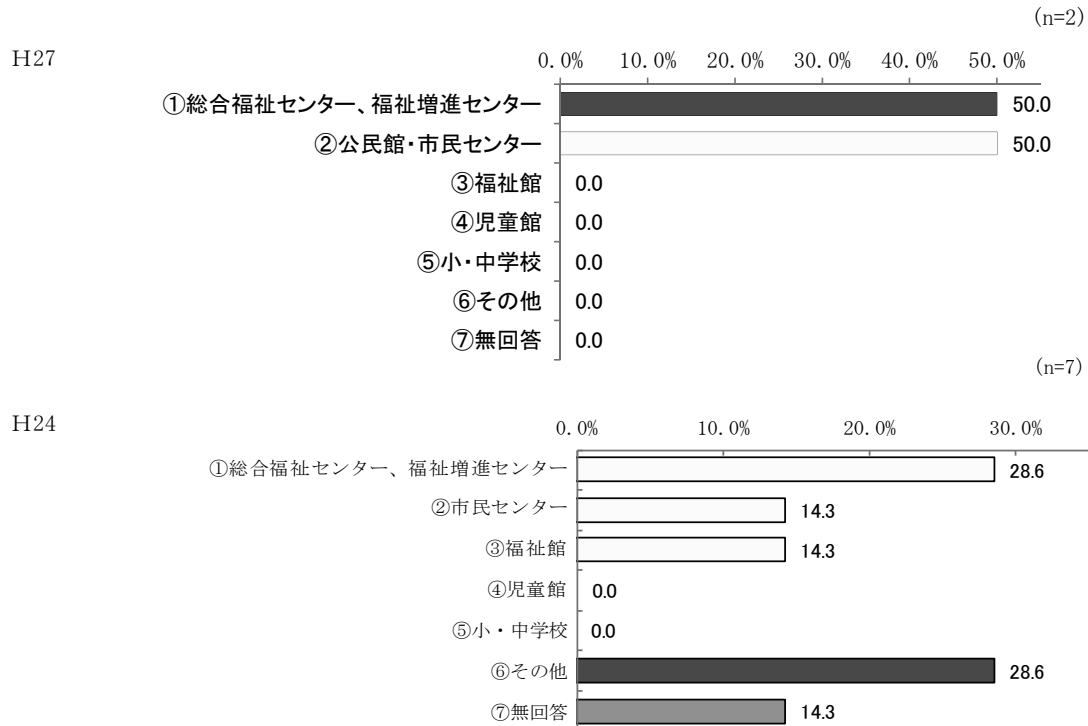
前回の調査と比較すると、同様の結果となっていますが、特に活動拠点は無いと回答した割合が少し高くなっています。

社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

【問3】＜【問2】で「公共施設の会議室などを利用して活動している」と回答した方のみ＞
 主な活動拠点としている公共施設は、次のどれにあたりますか。該当するものすべてに○をつけてください。
 (複数回答)



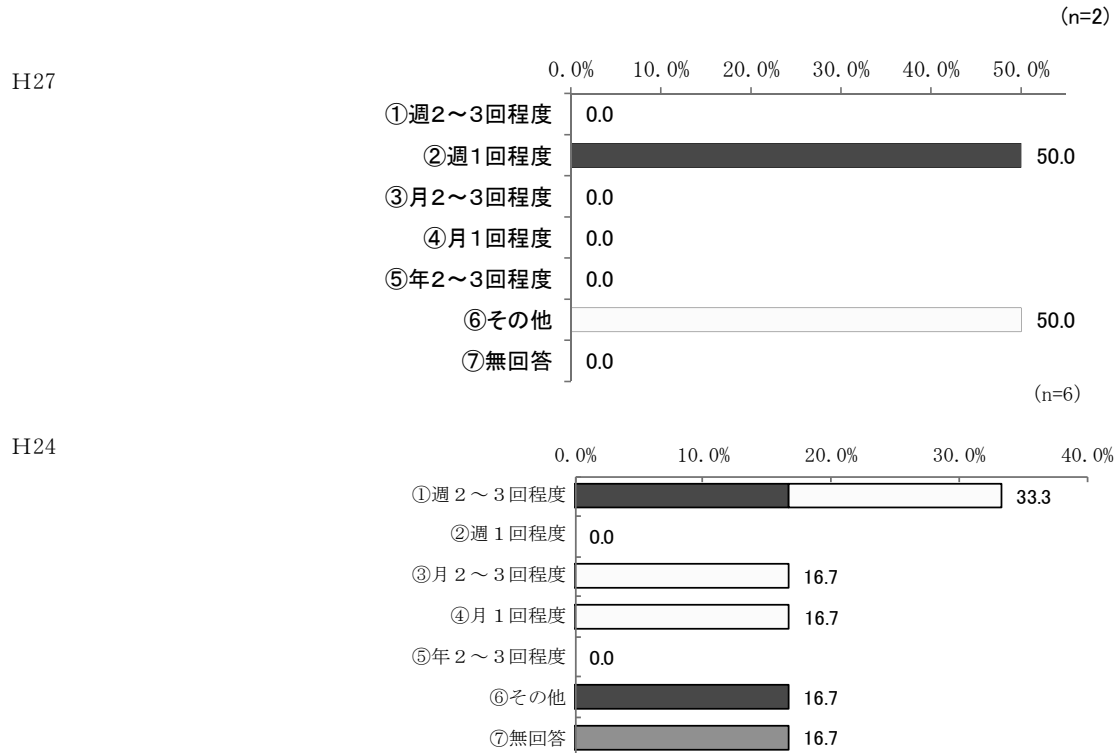
活動拠点としている公共施設については「①総合福祉センター、福祉増進センター」「②公民館、市民センター」という回答でした。

社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

【問4】＜【問2】で「公共施設の会議室などを利用して活動している」と回答した方のみ＞
 主な活動拠点としている公共施設の利用頻度は、どれくらいですか。該当するものに○をつけてください。
 (○は1つ)



活動拠点としている公共施設の利用頻度については、「②週1回程度」と「⑥その他（年5回）」という回答でした。

社会福祉法人

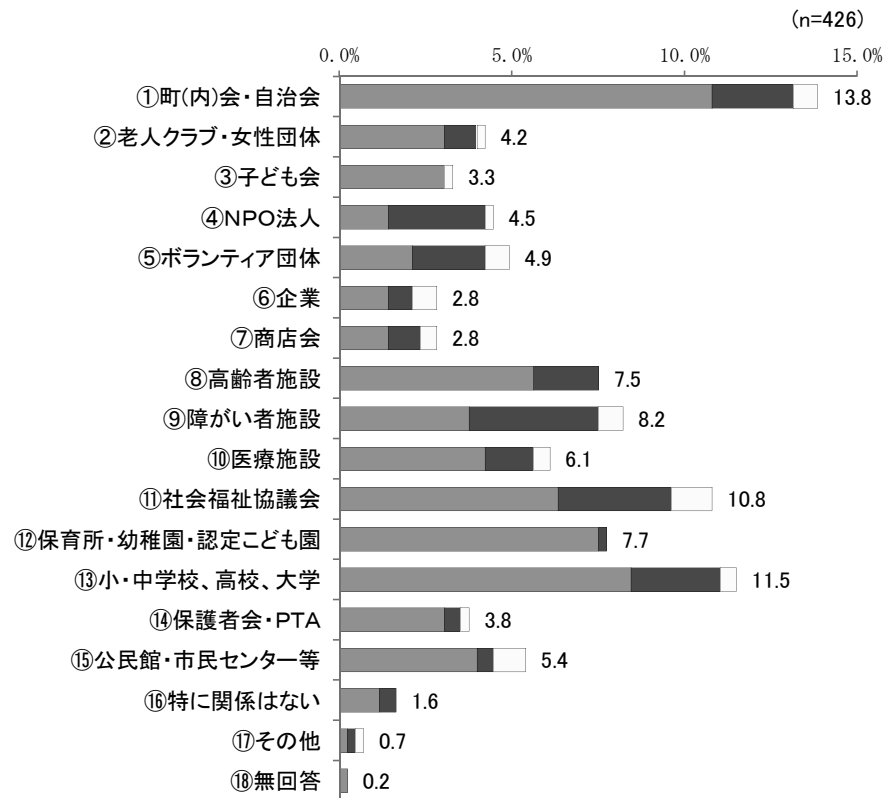
NPO法人

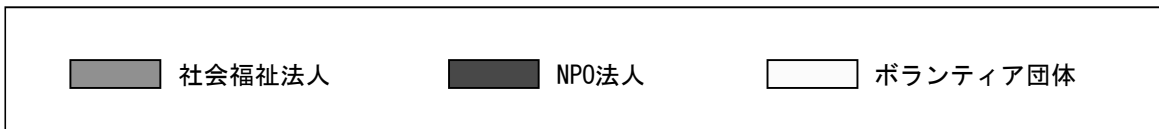
ボランティア団体

【問5】

貴団体は、他の団体や公共機関などと交流や協力関係がありますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

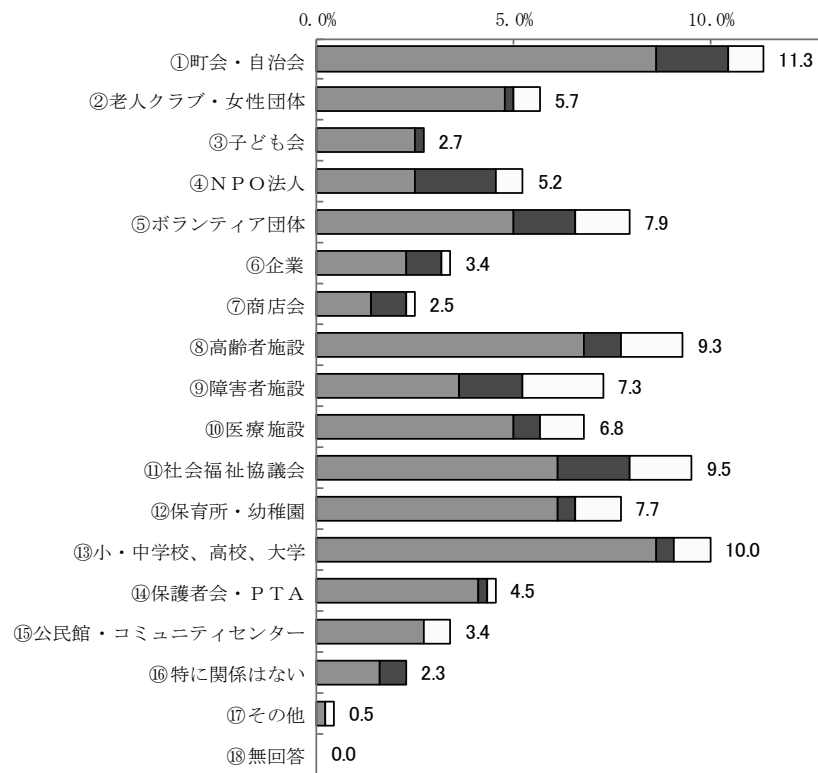
H27





H24

(n=441)



他の団体や公共機関などとの交流や協力関係については、「①町(内)会・自治会」と回答した割合が13.8%と最も高く、次いで「⑬小・中学校、高校、大学」が11.5%となっています。

前回の調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっていますが、「①町(内)会・自治会」、「⑬小・中学校、高校、大学」と回答した割合が増加しています。

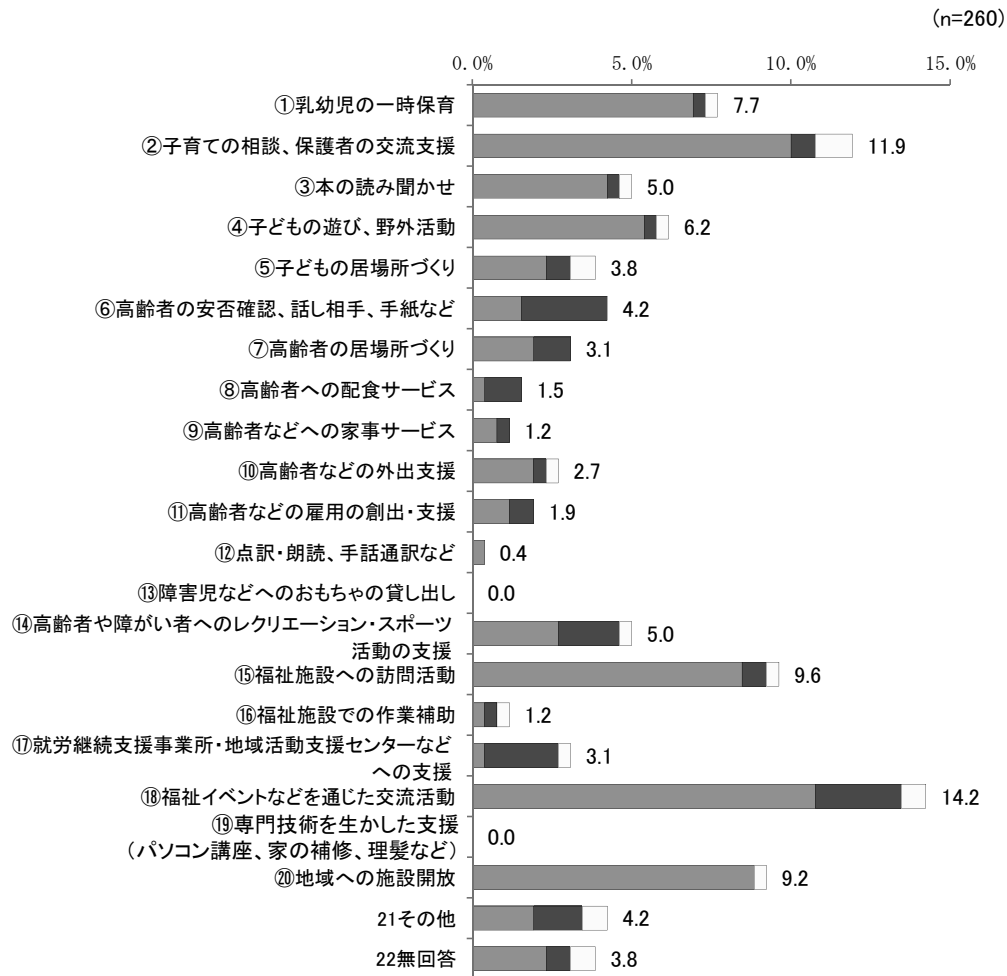
社会福祉法人

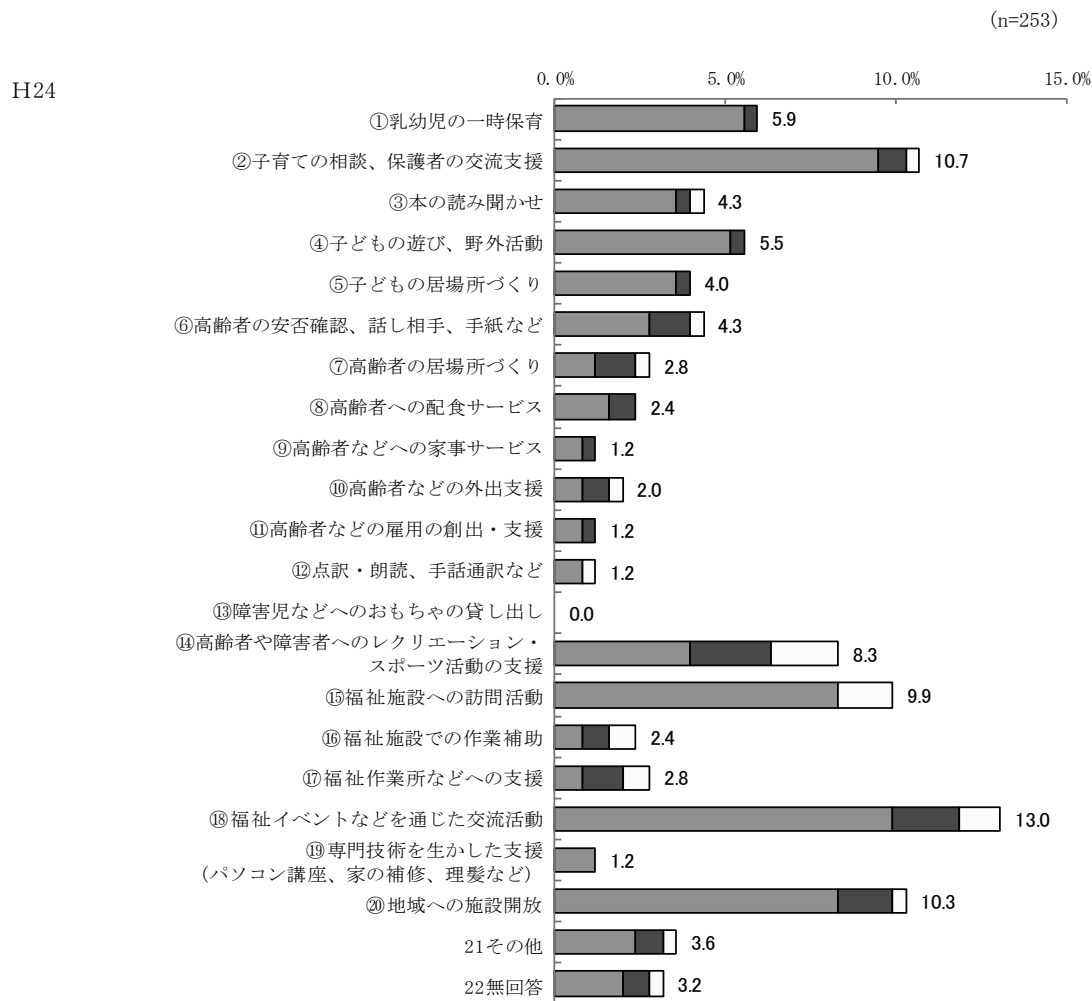
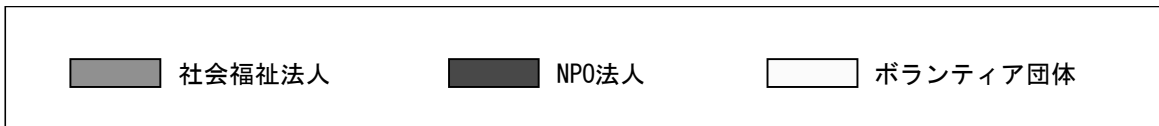
NPO法人

ボランティア団体

【問6】＜【問5】で「特に関係はない」以外と回答した方のみ＞
貴団体が、他の団体や公共機関などと交流や協力して行っている活動は、どのような活動ですか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

H27





他の団体や公共機関などと交流や協力して行っている活動については、「⑱福祉イベントなどを通じた交流活動」と回答した割合が14.2%と最も高く、次いで「②子育ての相談、保護者の交流支援」が11.9%となっています。

前回の調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっていますが、上位2項目の割合が少し増加しています。

社会福祉法人

NPO法人

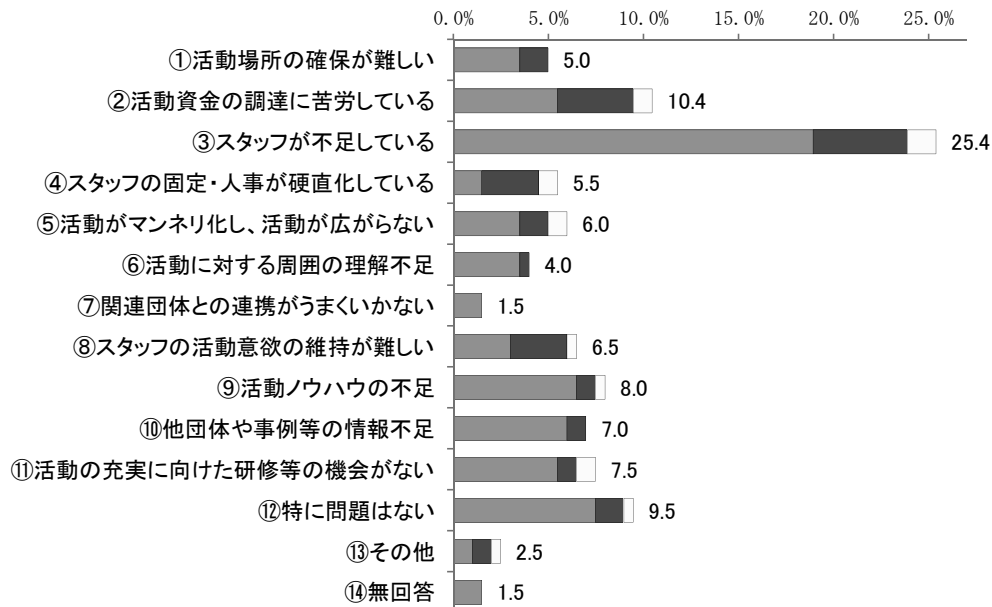
ボランティア団体

【問7】

貴団体の活動を行う（継続する）上での課題や問題点は何ですか。該当するものすべてに○をつけてください。
（複数回答）

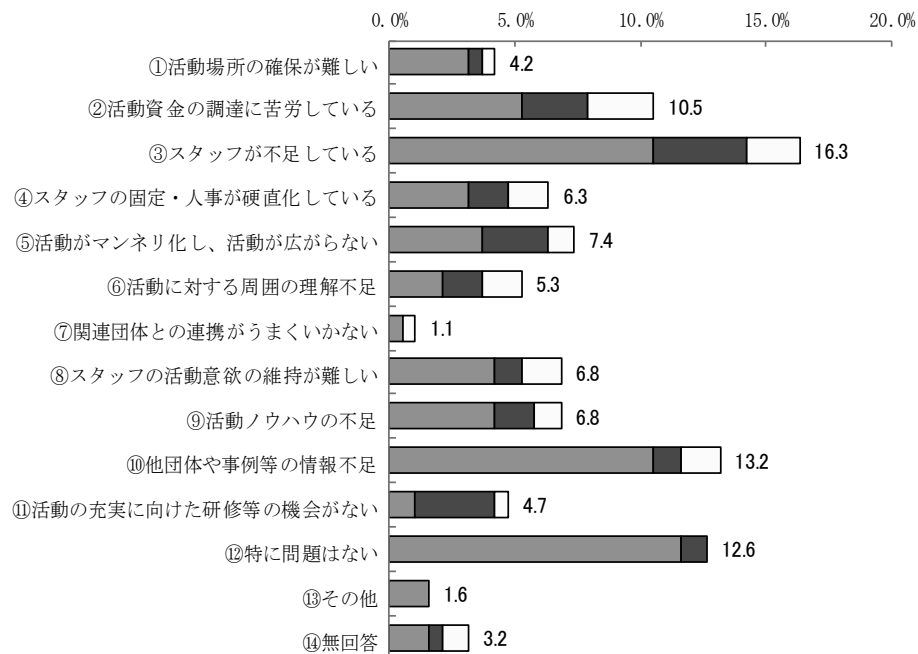
(n=201)

H27



(n=190)

H24



活動上の課題や問題点については、「③スタッフが不足している」と回答した割合が25.4%と最も高く、次いで「②活動資金の調達に苦労している」が10.4%となっています。
前回の調査と比較すると、スタッフが不足していると回答した割合が増えています。

社会福祉法人

NPO法人

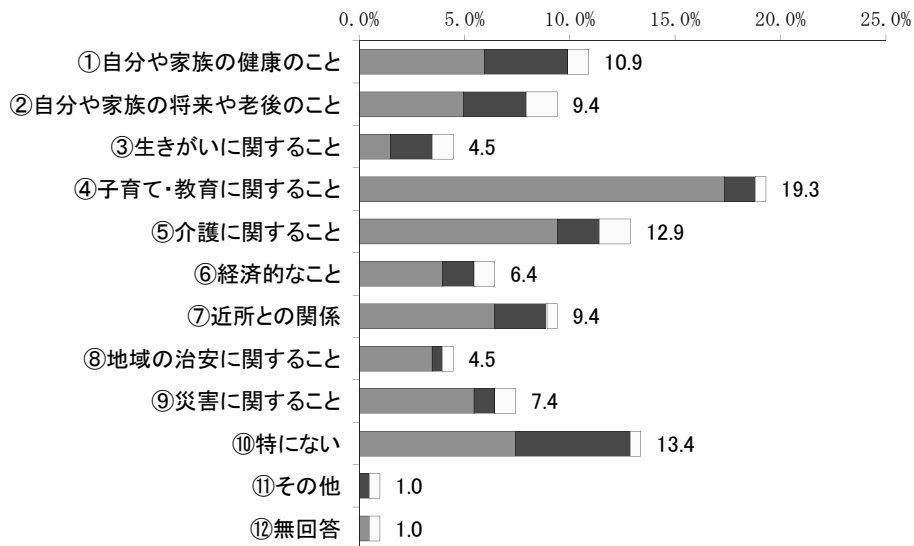
ボランティア団体

【問8】

貴団体では、地域の住民の方から、どのような内容の相談を受けたことがありますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

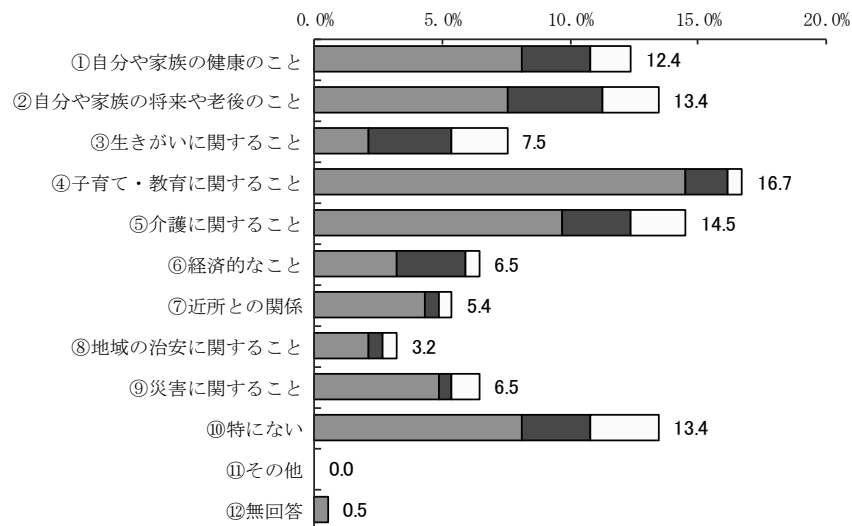
H27

(n=202)



H24

(n=186)



地域住民からの相談内容については、「④子育て・教育に関する事」と回答した割合が19.3%と最も高く、次いで「⑩特にない」が13.4%となっています。

前回の調査と比較すると、「④子育て・教育に関する事」と回答した人の割合が増えています。

社会福祉法人

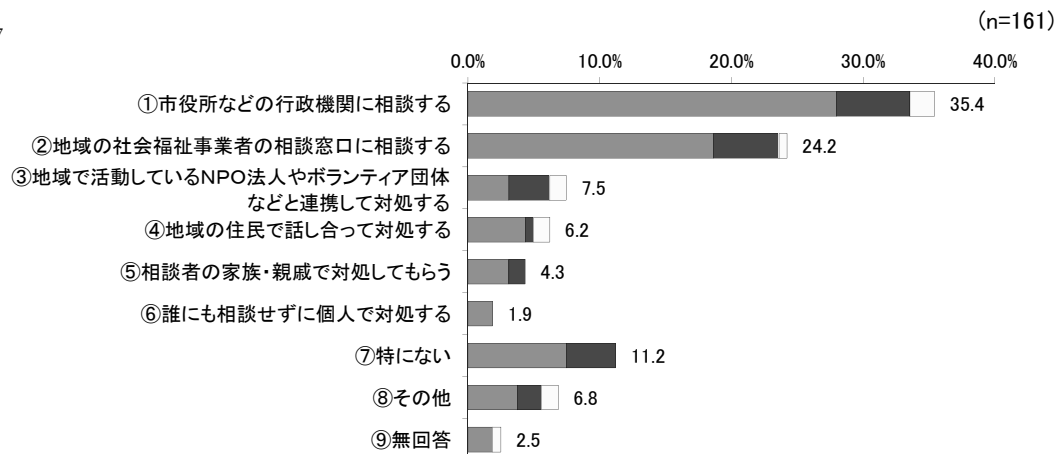
NPO法人

ボランティア団体

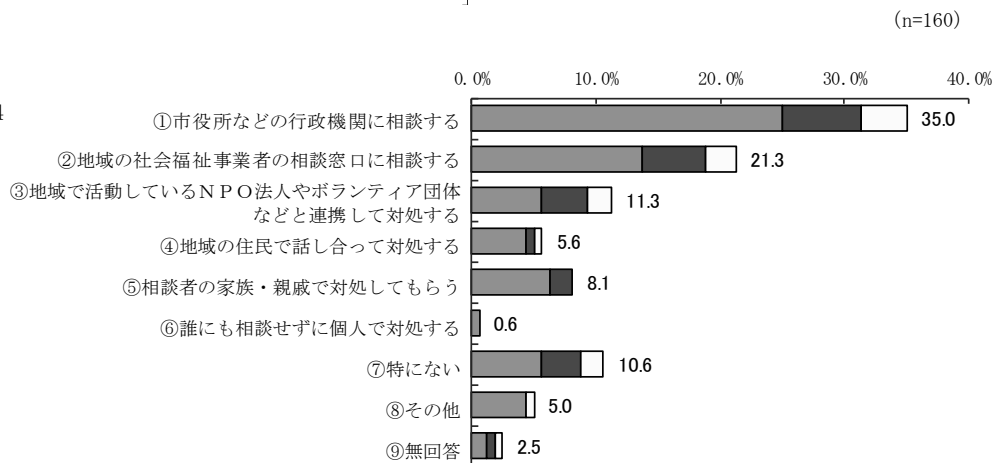
【問9】

貴団体では、地域の住民の方から相談を受けた場合、どのように対処していますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

H27



H24



地域住民からの相談の対処については、「①市役所などの行政機関に相談する」と回答した割合が35.4%と最も高く、次いで「②地域の社会福祉事業者の相談窓口相談する」が24.2%となっています。

前回の調査と比較すると、ほぼ同様の結果ですが、地域の社会福祉事業者の相談窓口への相談し対処してもらうという回答の割合が増えています。

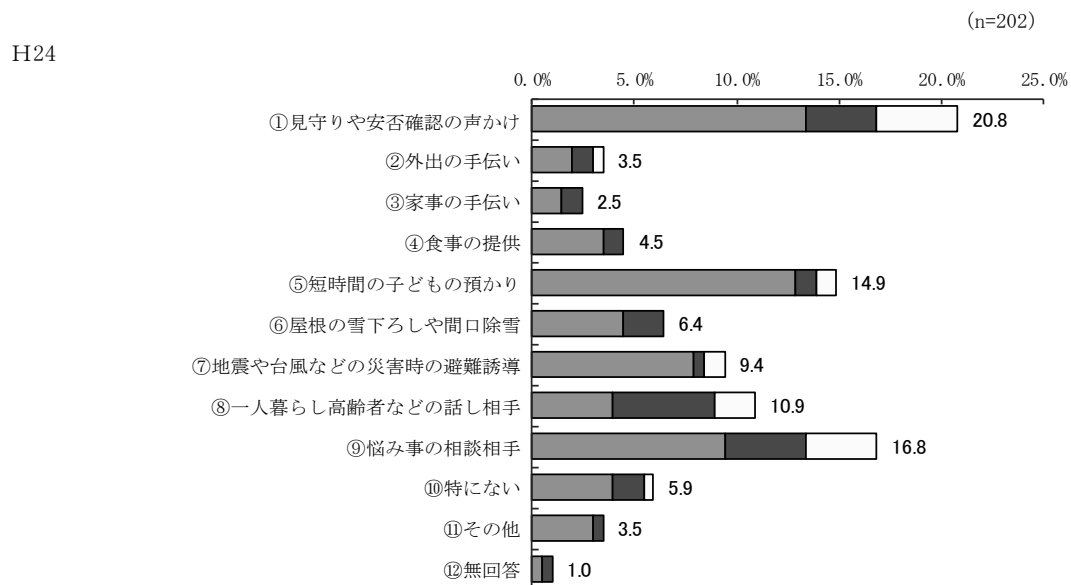
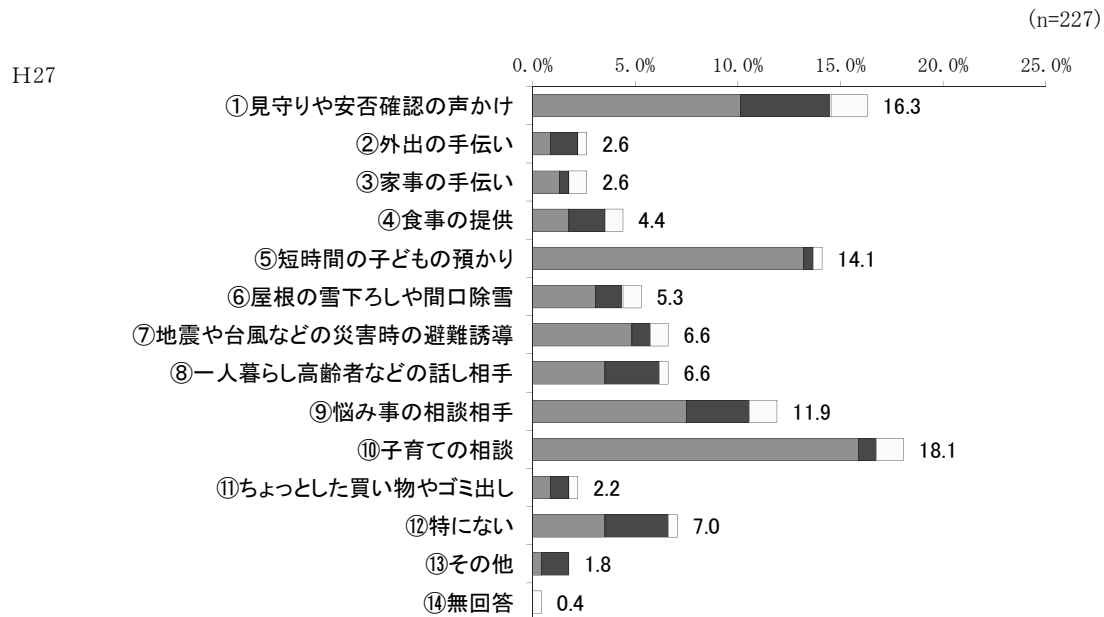
社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

【問10】

近所に、日々の生活において、支援を必要としている人がいた場合、あなたはどのような手助けができますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）



どのような手助けができるかについては、「⑩子育ての相談」と回答した割合が18.1%と最も高く、次いで「①見守りや安否確認の声かけ」が16.3%となっています。
 前回の調査と比較すると、新たに追加した項目である子育ての相談に関する手助けができるという社会福祉法人の回答が多いことがうかがえます。

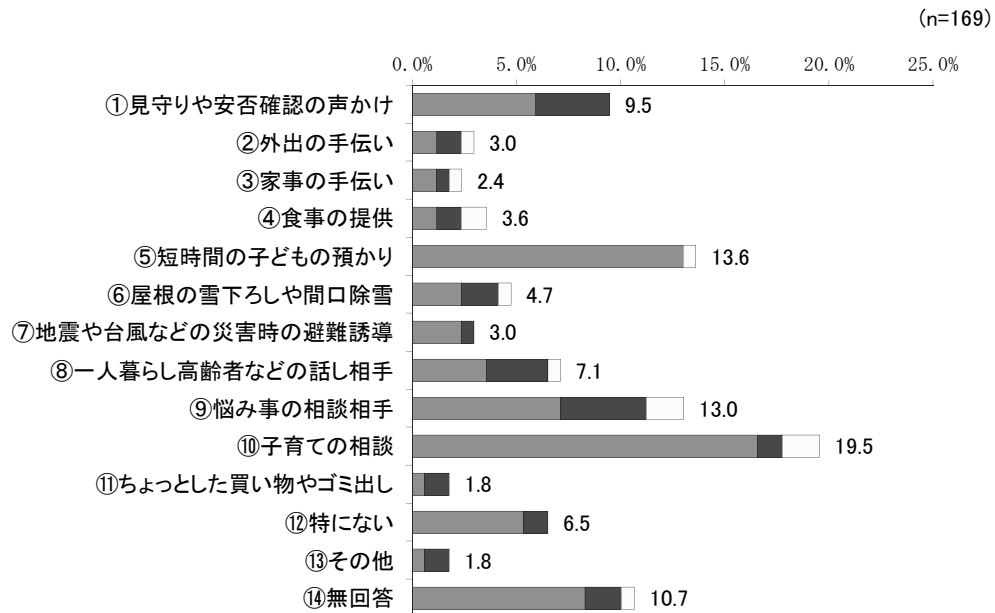
社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

【問11】

問10で近所の方に手助けが可能と答えた項目のうち、貴団体が実際に行っている手助けはどのようなものがありますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）



実際に行っている手助けについては、「⑩子育ての相談」と回答した割合が19.5%と最も高く、次いで「⑤短時間の子どもの預かり」が13.6%となっています。「⑨悩みごとの相談相手」の割合もやや高くなっています。（今回初調査）

社会福祉法人

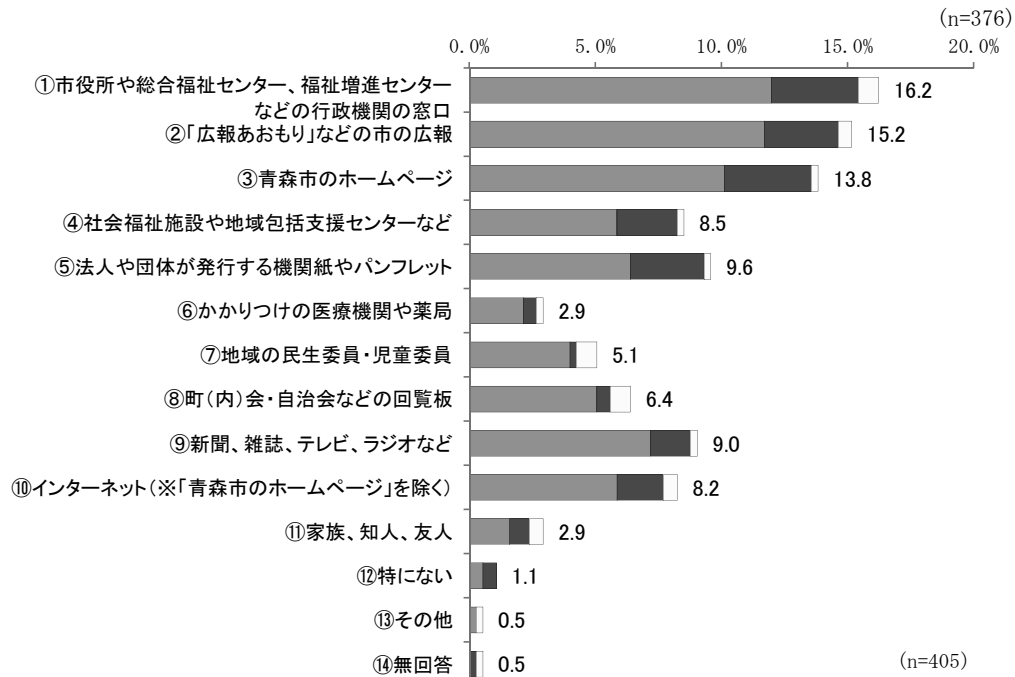
NPO法人

ボランティア団体

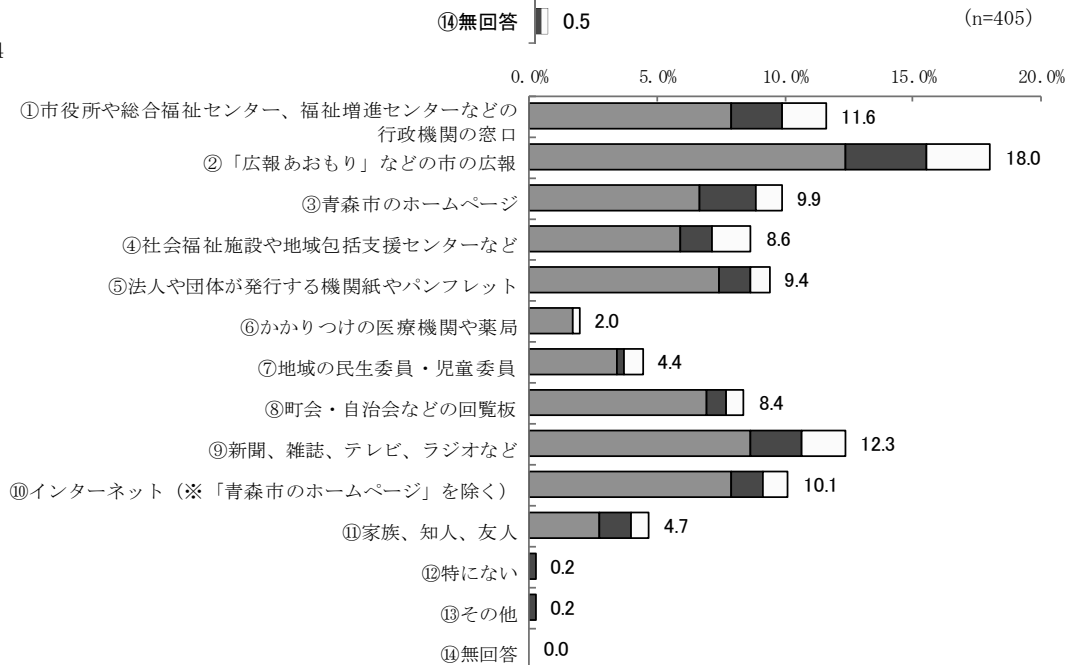
【問12】

あなたは、福祉サービスに関する情報をどのようにして入手していますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

H27



H24



福祉サービス情報をどのように入手しているかについては、「①行政機関の窓口」と回答した割合が16.2%と最も高く、次いで「⑨市の広報」が15.2%となっているほか、「③市のホームページ」の割合もやや高くなっています。

前回の調査と比較すると、市の広報や新聞、雑誌、テレビ、ラジオの割合が減少し、行政機関の窓口や市のホームページの割合が増加しています。

社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

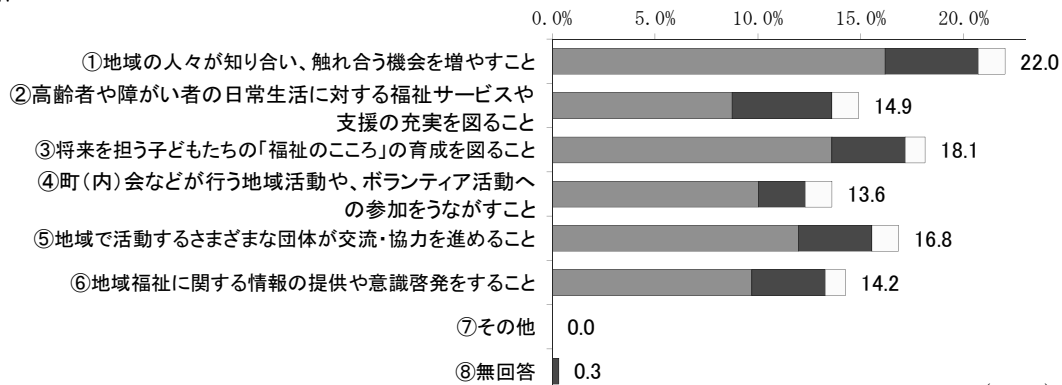
≪Ⅱ. 地域福祉に関するあなたの考えについて≫

【問13】

誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるために、貴団体は、どのような取り組みが必要であると考えますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

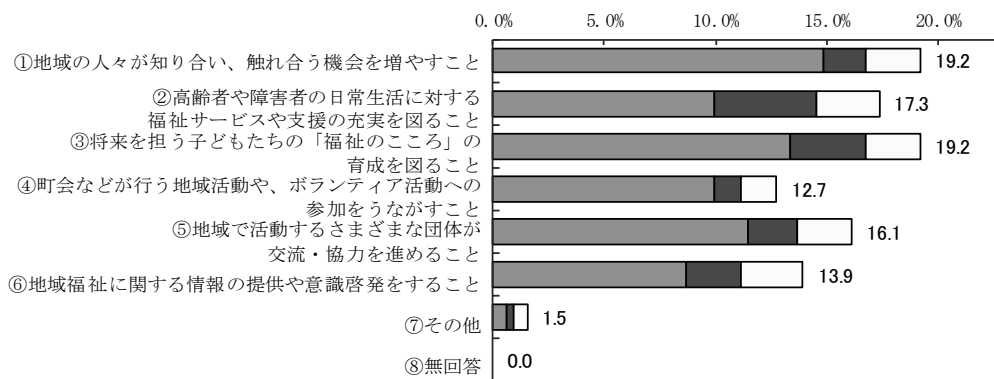
H27

(n=309)



H24

(n=323)



誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるためにできる取り組みについては、「①地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」と回答した割合が22%と最も高く、次いで「③将来を担う子どもたちの「福祉のこころ」の育成を図ること」が18.1%となっています。前回の調査と比較すると地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすことの割合が増加しています。

社会福祉法人

NPO法人

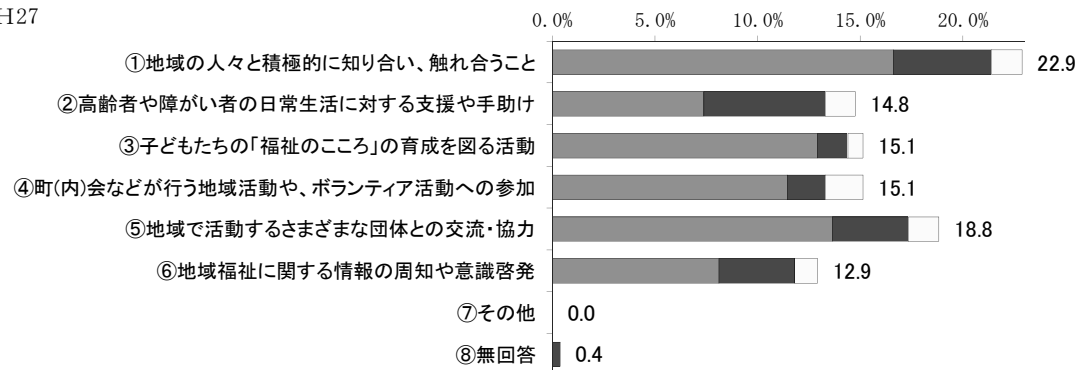
ボランティア団体

【問14】

誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるために、貴団体は、どのようなことができますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

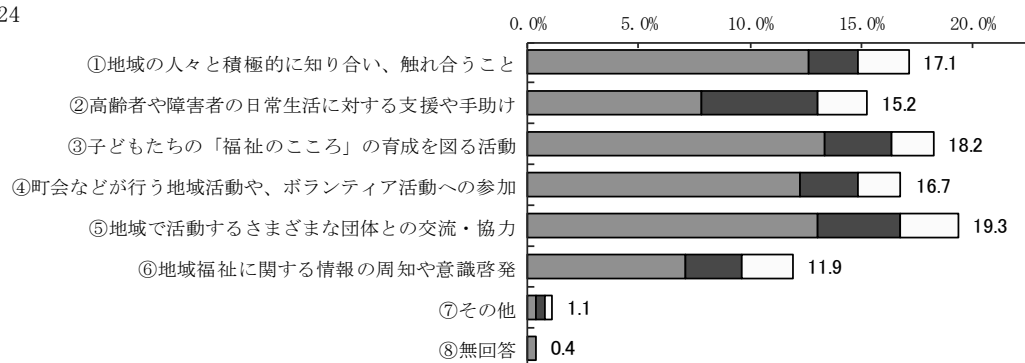
(n=271)

H27



(n=269)

H24



誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるためにできる取組みについては、「①地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」と回答した割合が22.9%と最も高く、次いで「⑤地域で活動するさまざまな団体との交流・協力」が18.8%となっています。

前回の調査と比較すると、地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすことと回答した人の割合が増えています。

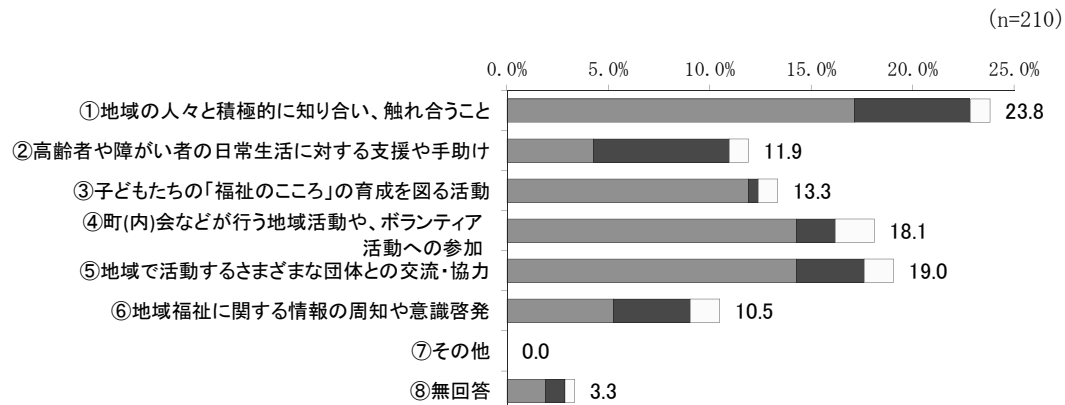
社会福祉法人

NPO法人

ボランティア団体

【問15】

誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるために、貴団体が実際に行っていることは何ですか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）



誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるために実際に行っている取組みについては、「①地域の人々と積極的に知り合い、触れ合うこと」と回答した割合が23.8%と最も高く、次いで「⑤地域で活動するさまざまな団体との交流・協力」が19.0%となっています。

「④町(内)会などが行う地域活動や、ボランティア活動への参加」の回答の割合も高くなっています（今回初調査）。

社会福祉法人

NPO法人

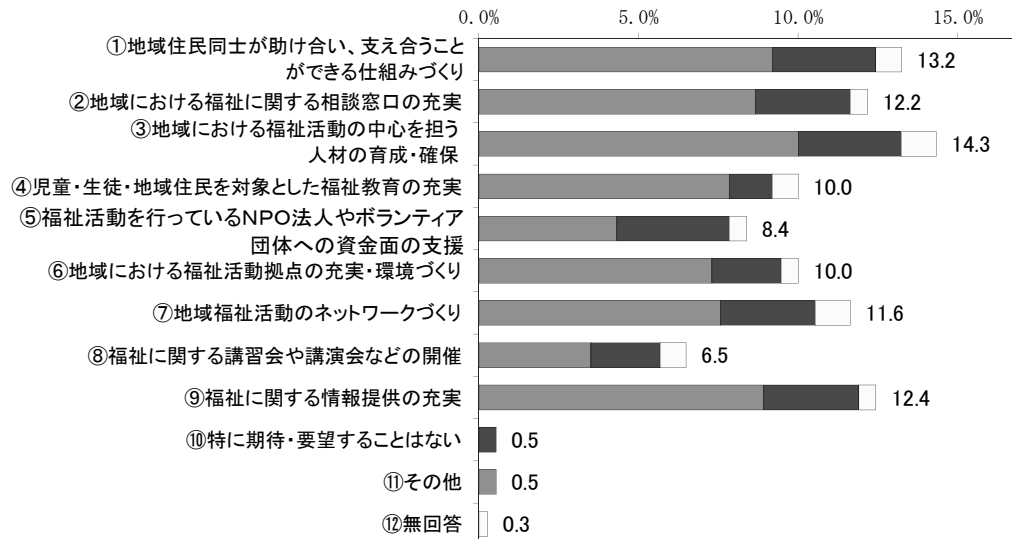
ボランティア団体

【問16】

あなたは、地域福祉を進める上で、行政にどのようなことを期待・要望しますか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

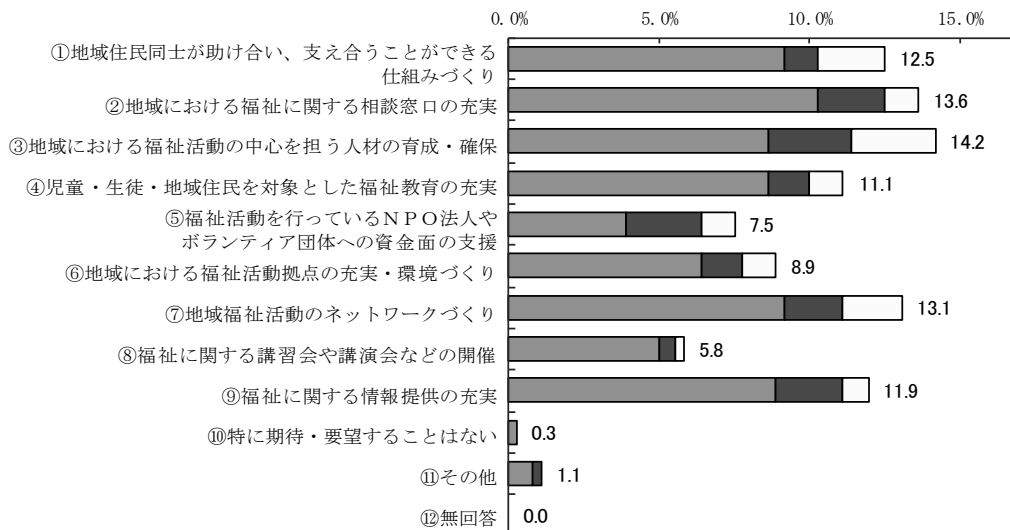
H27

(n=370)



H24

(n=360)



地域福祉を進める上で行政に期待・要望することについては、「③地域における福祉活動の中心を担う人材の育成・確保」と回答した割合が14.3%と最も高く、次いで「①地域住民同士が助け合い、支え合うこと」が13.2%となっています。また、「⑨福祉に関する情報提供の充実」の割合も高くなっています。

前回の調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



社会福祉法人



NPO法人



ボランティア団体

【問17】

誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる地域づくりを進めるために、あなたの地域のこういうところを良くすれば、地域がもっと住みやすくなるといった点など、地域福祉に関するにご意見、ご要望がありましたら、ご記入ください。（自由記載）

別紙参照

《社会福祉法人、NPO 法人、ボランティア団体》

問 1 7 自由記載

行政だけでは不十分だが、福祉の専門家と連携することにより解決できる問題が結構あると感じています。また逆に福祉の専門家だけの対応では難しいが、行政が介入することにより解決できることもあると思います。それぞれの優位性を発揮し、協力共同で地域住民の安心安全な福祉サービスを受けられるためのシステム作りが重要だと思います。
道幅が狭く曲がりくねっている。何処の道も行き止まりである。除雪車はなかなか来てくれない。幼児小学生の通学がとてかわいそうです。福祉のこころの前に通園した子通学した子が並木道の通学道を思い起こせるような道を先に考える事だと何時も思います。
浪岡（郡部）においても核家族化等で、地域の人同士の関係性が薄くなってしまった。関係性を高める普段の交流、イベントが必要と思う。
新城地区そのものの高齢化が進み、若い人が流出することに歯止めをかけなければならない。そのための雇用を促進できるような拠点作りをしていきたいと思います。また、福祉へのイメージや福祉活動を実践したり共に考えたり出来るような関わりが求められていくと思います。
安全に暮らすためにはこの地域は雪が大変です。道路の確保、お年寄りの屋根の雪下ろし片付け一番大事だと思います。お年寄りでも安全に歩ける散歩道があればと思います。
挨拶や声がけ地域に住んでいる人達に関心を持つこと。
ボランティアや NPO の活用が必要であるが、それらの活動への動機づけが重要。また、ボランティアであってもサービスが途切れないしくみが必要。
興味本位ではない、人と人との繋がりを深めていく事で地域の繋がりも生まれてくるのではないのでしょうか。
地域を何グループかに分け、小さなグループごとに話し合い、そこから提案された事項について、中グループその上で全体で話し合うというステップをふんで話し合いが、し易くなるよう工夫して進めていって欲しい。
町会、老人会、婦人会などで従来より地域を支えてきた人達と NPO など市民ボランティア活動をしている人、福祉介護の事業所の人達が協力して地域の課題に取り組めるような場作りが必要だと思います。それぞれの団体や人々が持っている知恵や経験に学び結びつける役割を行政に期待したい。
独居老人の引きこもりを解消する方法を何段階にも分けて計画を立ててみる。第 1 にお金をかけず、第 2 に気兼ねなく、第 3 にプライバシーに入り込まずに毎日にメリハリをつけて何か一つ楽しい事がある 1 日でいられるよう、周囲が努力する必要があると思います。
子供に子育て中の親に優しい大人のまなざしを育てる為に子育てを支援する人を育てる必要があると考えます。又、色々な団体や NPO、地域の協議会や町会のネットワークを繋げる機会があると互いの存在を知り連携出来るのではないのでしょうか？
障害があってもなくても高齢者でも子供でも自分らしく生きられる地域社会であればと思います。当会、知的障害児者を持つ親の会ではありますが、ひとりの子供を家族だけで支えるのは困難であると考えます。地域の方々に理解して貰えるよう我々も努力が必要であると思いつつ、ネットワークのよう

なものが構築されることを願います。
1.除雪の充実(特に家の前においてゆく置き雪) 2.地域主体で除雪ができるよう今の序排雪の仕組みの基本的見直し。 3.NPO の活動拠点づくりの支援(どこの NPO が資金不足で事務費の確保が難しい。
今迄地域サンロード、イオン青森店等で無料で作品を販売するのに貸してくれているので、とても地域の方々とうまくやっております。
問 6 の項目はすでに取り組まれてきたと思うが、どれも具体的な成果としての結果が出せていないのが現状。同じことの繰り返しでは 高齢化の進む地域では、もう手遅れだと感じる。行政にはもっと真剣に取り組んで実現を目指して欲しい。
行政とのパートナーシップの構築が大事ですが、行政がどう対応・行動するかが大事だと思います。
町内の一人暮らしの方がいつでも利用できる場所があったら良いかと思います。庁舎にも無料で使用できる場所を造っていただきたいです。
今年 8 月頃から具体的活動が始まります。
行政と関連団体の協働。
少子化に伴い利用する親子が減っています。又、活動を解散する地域もあります。まだまだ周知する力が足りないと思います。
子供達の「福祉」への関心を深めるための教育、ボランティアの推進を図る。地域住民と地域で活動している施設との交流を図る。災害時等いざという時にお互いに助けあえるよう、顔の見える交流が必要。地域の社会福祉協議会の地域に密着する活動(待っているだけでなく出向く)が大切。